

文化祭特集



①書道部作品を背景にキメの一枚、決まっていますね! ②父母の皆さん、本当にお疲れ様でした☆
④まるで大きな一枚の風景画のよう(制作部門) ⑤出演前にハイチーズ★
③毎年大盛況!!文化祭野外ステージ ⑥文化祭オープニング(吹奏楽部)

文化祭…青年教師時代の一コマを思い出す。
初めての卒業生を出し、自信満々で臨んだ一年担任。
その自信も生徒の様変わりにもろくも崩れかけた頃…文化祭で起死回生をはかった。
取り組んだのは演劇。戦争をテーマにしたものだった。
クライマックスでの女学生二人の別れのシーン。会場は静まり返り、演ずる女子生徒からは大粒の涙が…
割れんばかりの拍手に私は深い深い感動を覚えた。その女子生徒も今や母になっているのかも知れない。

2012年度 オーストラリアホームステイプログラム 募集説明会を1月27日(金)に行います。 ぜひご参加下さい!



前号の学校通信では、今年度のオーストラリアホームステイプログラムの様子を生徒の感想も交えて紹介させていただきました。
この度、今年度版の報告集が出来上がりました!どんな様子だったのかさらに詳しく編集されていますので、ご覧いただければと思います。
そして1月27日(金)15:45から、A号館2階の第2学習室にて、来年度プログラムの募集説明会を行います。興味のある生徒は集合してください。
なお、来年度の研修への参加を希望している生徒の保護者の方もぜひご参加ください。(教諭/尾崎)

Schedule (行事予定)

12月		
15	木	修学旅行1団出発(～18)
16	金	修学旅行2団出発(～19)3団代休
17	土	修学旅行3団出発(～20)、12/10振休
19	月	1団代休
20	火	2団代休(3年行事)
21	水	1・2・3団、2音代休、(1年行事)
22	木	終業式
1月		
10	火	始業式
11	水	1年進路ガイダンス、音楽科卒業演奏会
20	金	見真の日、第3回英検
21	土	自由選択⑦ 第6回かぜの会
22	日	簿記検定
23	月	卒業試験(～27)
27	金	オーストラリア語学研修募集説明会
28	土	P常任、1・2年進路父母ガイダンス・学級懇
29	日	情報処理検定
31	火	(推薦入試)

2011 オータムフェスティバル

今年度の『オータムフェスティバル』は、一宮集会(先月27日)で全22会場が終了いたしました。同朋高校でも、名古屋・尾張地域の先頭を切る形で『マイタウンふえすていばる中村・中川2011(同5日)』を開催し、市民の方を含めて約2,000名の参加

で賑わいました。
8月末には「私学助成見直し」と新聞報道がありましたが、集会を重ねる中で登壇いただいた県会議員から「教育格差は是正しなければならない」という主旨の発言も出てくるようになりました。しかし、県当局は財政赤字を理由に削減姿勢を崩そうとはしていません。今後は提出した請願署名を受けて県議会・県当局がどのような判断をしていくのかを見届けながら「教育に公平」を実現するための活動を進めていきます。

最後になりましたが、4会場で模擬店を出していただいた同朋学園父母懇をはじめとして、式典参加・資料運搬など、様々な形で多大なご助力をいただきました保護者・卒業生父母の皆さまには感謝を申し上げます。ありがとうございました。



11年度文化祭テーマ

「PUZZLE」

未来のピースを集めよう

今年の三年生の多くのクラスが夏休みを返上して練習に取り組んだ。体育大会も文化祭も三年生の頑張りなくしては語れない。つつの文化祭の取り組みが「伝統」を生み出した。これからも「伝統」を宝物のように守り、発展させて欲しい…。



301全員で作り上げた演劇『君に残した心』演劇部門

301 古市 恵
(大治町立大治中学出身)

「演劇部門、アカデミー賞は…301。教室が歓声に包まれた。自然と涙が出た。思い出してみると、本当にいろいろあった。一番印象に残っているのは、脚本決めの時だった『君に残した心』ともう「作が候補にあり、二つに分かれて話し合いをすることになった。でも、みんな熱が入りすぎて、そのときは脚本を



決定することができなかった。泣いてしまう人も出た。後日、それぞれ良い点、悪い点を出し合つて、どちらになっても頑張ることを皆で確認して投票、結果はたつたの一票差で『君に残した心』になった。夏休みから活動を始めようとしたが、あまり人が集まらなかった。三年生だから仕方がない面はあるけど、「こんなんでいいのか？」という焦りがあった。さらに担任に脚本を否定されて部を書き直すことになった。それもすくなく難しかった。その中で頑張ってくれたのが大道具のメンバーだった。いつも学校に来ていたし、細かいところまでこだわって作ってくれた。この大道具の頑張りが2学期以降の全体の活動をリードしてくれた。2学期が始まってもキャストが全員そろわなかったり演出が体調を崩したりと、なかなか大変だった。それでも練習を進めてゆくうちに、お互いの演技を指摘しあえるようになっていった。ぶつかることもあったが、言い合いを通して、みんなの中で、いいものを作ろうという



私たちが304クラスは、アカデミー賞をとることができました。けれど、本当にアカデミーがとれたことが奇跡に近いと思います。なぜかと言うと、文化祭でパフォーマンスをすると決まってから、なかなかどんなパフォーマンスをするのか決まらずに時間だけがどんどん経過し、最後には冗談で「ヒーローショーやるか!」というところになっていきました。しかし、パフォーマンスでヒーローショーをすることになったのはいいけれど、中身をどうするか、テーマは何にするのかとか全く考えていなくて、グダグダしたまま夏休みに入ってしまった、焦りが募る

気持ちが大きくなつていったと思う。音響はなかなか曲が見つからず苦労していたが、とても良い曲を集めてくれた。音の効果はとても大きかった。小道具は着実に活動して、他の所も手伝ってくれた。時代劇なので、衣装をそろえるのはとても大変だった。いろいろ助けてくれた松本先生、ありがとうございます。照明は本番前のリハーサルでしか実際

同朋戦隊Dレンジャー、パフォーマンス部門

304 石原 慎也
(南陽中学出身)

ばかりでした。夏休みに入つてクラスのみんなが全員そろつて集まることも少なく、夏休みも終わりにさしかかたぐらいうまくクラスのみんなども、「そろそろ準備しなくちゃやばい!!」と思い始め、準備に人が集まってくるようになりまし。脚本や殺陣などヒーローシヨも次第に形になつていき、台詞のアフレコ、ダンスに見せ場のクラス全員でのマーチングも完成していきまし。いざ本番になつて、ひどく緊張して、ラッパー星人もアドリブだらけだったけれど、なんとか成功して本当に良かったです。

本当に304クラスのみんはまともがなくて適当だけれど、やる時はやる本当にいいクラスです。本当このクラスでよかったです。



2年目の文化祭、研究部門

私たちのクラスは夏休みに入る前に、研究内容を「住まい」に決めました。そのタイミングではどのクラスもまだテーマすら決まっていまんでした。他のクラスに比べて、順調に体制を整え、調査の手前まで進んで行きました。クラスの研究テーマを決めた後で、クラス内での実行委員会と事務局とクラスでの推進母体となる中心メンバーを決めていきました。事務局員から実行委員長と副実行委員長を決め、何度かアンケートを取つて「37個」の研究テーマを見つけました。その後、それぞれの立候補で研究テーマを選び、チームリーダーを決めて、夏休みには個人調査をすることになりました。

夏休みには事務局会議がありまし。合計で10回くらいあったのですが、全然人が集まりませんでした。毎回毎回同じメンバーばかり…。夏休み中は、その事務局会議の他に個人調査と教室内の雰囲気づくりなどが主となつていました。このときにフィールドワークに行った子たちもいたようです。夏休みが終わる2学期に入つても、クラス全員が準備に向かっていきました。全員参加するはずなのに、夏休み中の個人調査が進んでいない子も多く、結局いつものメンバーが残つて準備をしていました。文化祭が近づいてもなかなかエンジンがかからないクラスにいららした時期もありました。が、文化祭が近づくにつれ、準備で残る子たちが増えていきました。それぞれが焦り始めたからだだと思います。また、「クラスの員として、アカデミー賞を目指したい」と思い始めたからだと思ます。この頃から作業に残る子が増えまし。きつと延べ人数では学年で番大勢残つて作業をしていたと思います。文化祭オープニングの日、最後の手直しと見る人が見やすいように」という工夫をいくつか考えまし。公開日当日も自分のやりたいことはせず

201 池田 詩穂
(柳中学出身)

にクラスのために動いた子たちがいました。

公開日も無事終わり、エンディングでアカデミー賞は201と言われた瞬間、クラスみんな喜びまし。教室でみんな写真撮る予定だったのですが、片付けをしている子がいたため全員揃つておらず、「全員で写真を撮るため、その日は写真を撮りませんでした。

201は最初の方はあまり人が集まりませんでした。最後はみんなが協力して頑張つていいものを作ろうと準備したからアカデミー賞を取れたのだと思います。文化祭をきっかけにいろいろな子と話すことも増え、クラスの絆も深まったと思つています。「やつてよかた」と思える努力を、みんなができてよかつた。



同朋高校初めての文化祭、制作部門

文化祭までに、「モザイク壁画なでしJAPAN」を完成させるのは想像していたより大変なものでした。そもそもなぜ102の作品が「なでしJAPAN」なのかというと、震災で傷つた人々に笑顔や希望を与えた「なでしJAPAN」のように私たちも人々に笑顔になつてもらえるような感動的なものを作りたいという思いがあつて決定しました。

これのテーマを本当に理解している人は少なからずこのクラスにいました。しかし、このことから目を背けて非協力的な人たちもいました。それ

102 眞鍋 晃季
(大高中学出身)

分が小さく感じられまし。当日までの数日間、ほとんどの人が夜まで残つてくれました。毎日その光景を見るのが嬉しかったです。当日ギリギリで作上げたモザイク壁画はしつかりと「なでしJAPAN」を映し出していました。バックステージで際目立っていて、来場者の人たちが壁画を見て感動していたのでとても嬉しかったです。今回の文化祭で多くのクラスが団結力と絆を手に入れることができたと思います。これからもその友情を皆で大切にしてほしいと思います。来年も充実した文化祭にしたいです。

Best Class Award



ベストクラス制作102「モザイク壁画」



ベストクラス研究209「都市伝説」準備風景



ベストクラス研究209「都市伝説」迫力あるものに仕上げました!

2011年度文化祭を終えて

その時、1,200名の生徒が入っている体育館は静まり返っていました。人の女子生徒の言葉を聞き逃すまいと集中して。

今年の文化祭では、宮城県石巻市立女子商業高校から遠藤留美さんと平居淑子先生を招いてのシンポジウムが行われました。二人は東日本大震災によつて街がどのように変わつてしまつたのか、学校がどうなつていのかについてシンポジウムで話してくれました。生徒たちにとっては生で聞く震災の出来事。半年以上経つてニュースで流れることが少なくなつても、まだまだ現地の復興は進んでいないことを知りました。

そして、文化祭エンディングでの遠藤さんの発表。全校生徒が水を打つたように静かに聞き入りまし。彼女から語られる非日常を聞くことによつて、日常の中にある自分たちをもう一度見直し、日々を大切にしてくこと。そんなことを学んでくれたと思ひます。

この文化祭を経て、生徒たちはまた二つ成長しています。文化祭での経験をこれからの学校生活で活かしていつてほしいと思ひます。

(教諭/岡田)

PRECIOUS ～私たちの大切な仲間～



文化祭本部企画 シンポジウム

「未来のために」 ～宮城の高校生と震災について考える～

10月2日(日)同朋高校多目的ホールにてシンポジウム「未来のために」宮城の高校生と震災について考える」を開催しました。シンポジウムには石巻市立女子商業高校3年生の遠藤留美さん、平居淑子先生をお招きしました。遠藤さんは通っていた高校が津波の被害を受けてしまい現在他校の高校の一部を間借りして授業を受けていることや、地元で就職を希望しているにも関わらず求人が数件しかない厳しい状況など高校生ならではの視点から東日本大震災の影響について語ってくれました。テレビ番組ではなかなか報道されない被災地の高校生の生の声に120名を超える同朋高校の生徒達は静かに聞き入っていました。



た」というボランティアを経験した同朋生の言葉には説得力がありました。また文化祭実行委員会はシンポジウムに先立って募金活動にも取り組んできました。実行委員の生徒達が登校してくる生徒達に玄関で募金を呼びかけたり、PTAの集まりにお伺いしてたくさんのご協力を頂きました。その結果シンポジウム後のエンディングではその募金で購入したデジタルカメラを石巻市立女子商業高校に寄贈することができました。実行委員の生徒が「私達はシンポジウムの準備をすすめる中で悲しい写真をたくさん見ました。でもこれからはこのカメラで楽しい写真をたくさん撮って下さいね!今から1枚目の楽しい写真を撮

他にもボランティアを体験した同朋の生徒達が現地の悲惨な様子や炊き出しの体験、避難所で遠藤さんとお出会って仲良くなり同朋高校に招待した経緯などを発表しました。「生半可な気持ちでボランティアに行つては行けないと思つた」「遠藤さんのように学びたくても学べない高校生もいるのに、勉強が面倒だと言つていた自分が嫌になつた」というボランティアを経験した同朋生の言葉には説得力がありました。

シンポジウムに参加した生徒の感想

◆自分は6月にボランティアに行きました。そのとき、色んな事を思いました。でも最近になつてその思いが薄れていきました。今日のシンポジウムで忘れかけていたことを思い出しました。

◆初めてこういう場に参加して、被災者の気持ちを知った。今、普通でいられるのが幸せなのだとなんかありがたくなつた。

りますよ!」と突然舞台側から同朋の生徒達をバックに遠藤さんの写真を撮るといふサプライズ企画もありました。この文化祭シンポジウムを通じて、同朋生の心に宮城の仲間を想う心が育つてくれたと思います。

(教諭/嶋崎)

◆ニュースでは大人やおじいさんなどの話ばかりだったので同年代の人の話を聞けてとてもいい体験になつた。遠い場所地震が起こり、自分たちの所は大丈夫だと思つていただけ自分と同じ年代の人も地震にあつたんだと改めて思つた。

◆話を聞いて、子どもや同じ年の人などが辛い思いをしているので私も何か手伝いたいと思いました。今でも間に合うなら一人を笑顔にしたいです。



文化祭オープニング・エンディング企画を終えて

今年のオープニング・エンディング企画は、「みんながワクワクするようなものを！」をテーマに取り組みました。最初のうちは、集まるものの、なかなか「これでいこう！」というものが決まりませんでした。何度も集まっていく中で、今年のテーマ「PUZZLE 未来のピースをあつめよう」に沿ったものにしよう、まずは曲から選ぼう、といった意見が出るようになりました。そして、最終的に「みんなの笑顔（ピース）の写真を集めて、今年のテーマである、みんなにとっての未来のピースは何か？」を伝えるようなスライドにしよう」ということになりました。企画決定後は、全校生徒にアンケートを行い、生徒の笑顔の写真を担当者で撮りに行きました。スライドの編集も各クラスの準備の合間をぬって生徒が行いました。企画の終了後は、担当者が友人から好評を頂いたように、成功したことを喜んでいる姿が印象的でした。

企画決定に時間はかかりましたが、企画が完成した時の達成感と経験を活かしてほしいと思います。

（教諭／松原）



PTA 物品バザー

私たちも頑張りました！

PTAでは今年も、生活指導委員会が物品バザー、文化委員会は喫茶、地域懇談委員会はみたらし販売、事業委員会は焼きそば販売を行いました。

わたしたち生活指導委員会は、今年度商品ゼロからのスタートで、当日来てくださった地域の方、保護者の方、生徒さん達に喜んでもらえるよう、前日までバザー商品の受付をしました。おかげさまで皆様のご協力でたくさんの商品を集めることができ、大変感謝しております。中でも好評だったのは、洗剤やおもちゃ類です。開店してすぐに完売してしまいました。

また、今年度は新しくできた多目的ホールが会場になり、当日はとてもにぎわい大盛況のうちに終わりました。

ぜひ来年度、より多くの保護者の方々にも参加していただき、ますます文化祭が盛りあがればと思います。

（生活指導委員長／津田和美）



日々輝かしく活躍する同朋生たち

普通科

国民体育大会優勝 ～全国制覇～

304 海島亜梨沙
（羽島市立羽島中学出身）

私が高校に入ってから全国大会に出場できたのはこの国体が初めてでした。それまでは、なかなか結果を残すことが出来ませんでした。

私の3年間は怪我也多く、試合に出れなかったときもありました。キャプテンという立場から辛いこともあり、思うように柔道が出来なかったときもありましたが、全国で勝ちたいという目標があったからこそ乗り越えることができたと思います。また、最後のインターハイ予選にも出場できなくてつらい思いをした分、国体にかける思いは誰よりも強かったと思います。

全国では、不安やプレッシャーもありましたが、先生方をはじめ仲間たちに支えられ乗り越えることが出来ました。初戦から厳しい戦いでしたが自分を信じて思い切つて戦うことが出来ました。最後となる大会で結果を残して終わることができ同朋に来て良かったという思いと、素晴らしい先生方の下で柔道ができてよかったという感謝の気持ちで一杯です。

全国大会は、私にとって良い刺激になり、勉強にもなりました。この結果に満足することなく大学でも日本目指して努力していきたいです。



音楽科

感謝 ～全国大会打楽器部門第三位入賞～

312 鎌田かおり
（四日市市西陵中学出身）

12月2日、日本クラシック音楽コンクール打楽器部門の全国大会に出場しました。4カ月前に地区予選があり自分のためになる、高評をたくさん頂きましたが、他にも演奏会や試験が重なり思うように練習に専念することが出来ませんでした。幸い地区予選、本選と無事に通過することができ、全国大会出場が決まりました。

しかし、私には納得のいく演奏が出来なかった悔しさが大きく残っていました。ただ楽譜通りに演奏するだけでなく、自分の世界を作り、どう自分を表現するかが課題でした。今回演奏した曲は作曲者がマリリンバに対してさまざまな思いを込めて作られた曲なので、私も11年間続けてきたマリリンバの思い出を振り返りながら、また、いつも支えてくれている家族、応援してくれた友達、先生方に感謝の気持ちを込めて演奏しました。その結果、全国で第3位入賞を果たすことが出来ました。

これからさらに精進して、私の将来の夢であるプロの演奏家を目指していきたいと思っています。



商業科

28名の生徒に県知事から職業教育技術顕彰が授与されました

愛知県には高等学校で学ぶ生徒が、職業資格の取得を通じて技術、技能に習熟し、学習意欲を高め、目的意識を持って充実した学校生活を送り、将来にわたって豊かな職業生活を営むことができるようにすることを目的とし県知事が顕彰を授与する職業教育技術顕彰制度があります。今年度も多くの生徒が日ごろの学習や資格試験取得に向け努力し、28名もの生徒が授与されましたので報告いたします。

（教諭／平野）

職業教育技術顕彰が授与された生徒

浅尾 真弥	有川 由衣	今川 学	片瀬 夏妃
片山 早智	門脇 夏美	川井 康裕	河村 有紀
喜多 帆乃香	小高 峯里紗	島田 有季乃	鈴木 見彩子
塚田 政和	中 島 駿	服部 弥佳	深津 祐貴
藤本 梨乃	細野 かな	本多 奈都美	松浦 麻依香
水野 亜美	矢野 沙也加	山 崎 純	山田 実穂
湯澤 允祥	横 山 おりえ	米 満 舞	渡 邊 梓

